



マチニワの活用策は

八戸・はっちでワークショップ

八戸市は10日、来年夏までのオープンを目指して同市三日町に整備中の「(仮称)三日町にぎわい拠点 マチニワ」について、活用や中心街での役割を考える市民向けのワークショップを「はっち」で初開催した。約60人が参加し、イベントや個人での過ごし方などの案を出し合い、開館後

「(仮称)三日町にぎわい拠点マチニワ」の活用についてアイデアを出し合う市民10日、はっち

のイメージを深めていた。市によると、マチニワは全面ガラス張りの施設で、自然の要素を取り入れた全天候型の「庭」がイメージされている。

参加者は6、7人のグループに分かれ、「オープンから3年後」を想定し、思い付いた案を付箋に書いた。

活用策では、朝市や山車制作、ラジオ体操、読書、結婚式、盆踊り、暇つぶしに1といった提案が。中心街における活用イメージでは「若者が集まる場所に」「季節を問わず人がいる」「はっちとは違う施設に」などが挙げられた。

参加した八戸学院大4年の平沼日菜子さん(21)は

「若者が気軽に来ることが出来る場所になってほしい。いろんなアイデアがあったが、実際にどのくらい反映されていくのか注目したい」と話した。

市は9月下旬までに市民向けのワークショップを、あと1、2回開く予定。

(田中周菜)